

# 国際理解教育のあるべき姿を目指して

## — 総合学習・音楽科の実践を通して —

前上海日本人学校虹橋校 教諭

岩手県盛岡市立北厨川小学校 教諭 葛 西 浩 美

キーワード：日本と中国の遊び、伝統音楽の指導

### 1. はじめに

今や世界の注目を浴び、急速な経済発展を遂げる「中国」。私が滞在した平成19年4月から平成22年3月の間、北京オリンピックや上海万博に向けて、道路整備・地下鉄工事など建設ラッシュで明け暮れた。特に経済の中心「上海」は「中国の顔」としても勢いを増しつつあった。

上海という街は、皇帝が都をおかなかった街で、いわゆる「中国らしい建物」が少ない。その反面アヘン戦争後に締結された南京条約（1842年）の結果、ヨーロッパの列強諸国の疎開地となり、現在でも19世紀のヨーロッパ建築が数多く残されている。旧疎開地を歩くと、まるでヨーロッパの街を歩いているような錯覚に陥る。また、その一方で人口1800万あまりの人口を有し、近代的高層ビル・高層マンションが林立し、近未来都市を思わせる面もある。「レトロとモダンが混在している街」とも言われる上海。現在では日本人は3万人近く、西欧諸国からの駐在員も多く、開放的な街という印象を受ける。

古くから密接な関係を保っていたはずのお隣の国・中国であるが、意外に日本人にとって「近くて遠い国」と言えるのではないかと考えた。「国際理解教育」とは、まず己の国を知り、そして相手の国を理解することから始まるのではないかと考えた。そこで「国際理解教育」を進めていく上での大きな柱として、自国がもっているよさを知った上で、相手国のよさを知り、お互いのよさを認め合い発展させようとする意識を児童に持たせようとした。

本校は、どの学年も中国の伝統文化を経験できるチャレンジタイム（中国影絵、中国武術、京劇上海雑技団、中国伝統楽器）を行っている。また、現地校との交流も各学年で行っているため、「知る」だけでなく交流を通して「体得」できるチャンスもある。本文では、3年生の総合学習「上海タイム」で実践した「日本と中国の遊び」、4・6年生の音楽科で実践した「和楽器の学習」を中心に述べることにする。

### 2. 活動の実際

#### (1) 総合学習「上海タイム」での「日本と中国の遊び」

##### ① 1学期の取り組み（題材決め・練習への取り組み・中間発表会）

- ・ 上海日本人学校は、2009年4月現在・全校児童数1339名、46学級（特別支援学級1含む）のマンモス校である。総合学習が初めてという3年生7クラスの児童を相手に、「どの児童も年間を通して自分から進んで取り組めるもの・学級間の交流ができるもの・日本と中国どちらの学びもあるもの」を考えた。そこで「日本と中国の遊び」を取り上げ、歴史や種類を調べることで実際に自分たちもできるようになること・中国の学校との交流会で一緒に遊ぶことをめあてに取り組んだ。
- ・ まず、「日本や中国の遊び」について、図書室やインターネットで調べたり保護者の方から聞いたりして幅広く遊びについて理解を深めていった。次に中国人スタッフの方から、実際に中国の遊び「中国ごま」「けばね」を紹介していただき、実際に自分たちも遊んだ。
- ・ ある程度「日本と中国の遊び」を知った上で、自分が取り組んでみたい遊びをしまり、練習に取り組んだ。1学期の終わりには、お互いにできた遊びの技を披露する中間発表会を行った。

② 2学期・交流会に向けての計画

- ・ 11月の交流会本番に向けて、どのような取り組みをしていけばよいか「上海タイムメモ」をもとに、話し合った。また、交流会後の3学期には保護者の方を招待しての学習発表会も予定されていたので、交流会を通しての学びも発表できるように計画をたてた。(資料1)
- ・ 様々な遊びの中から交流会では「日本ごま」「中国ごま」「折り紙と切り絵」「日本将棋」「中国将棋」「お手玉・おはじき」のグループに別れ、役割を決めて取り組んだ。(資料2)

(資料1・上海タイムメモ)

1. テーマ	日本と中国の遊びを伝えあおう ～わざ・れきし・ちがいでいっているところ～
2. 伝える遊び	_____
3. 交流会に向けて	・ 伝えること    ・ 伝えるための方法 ・ 伝えるための役わり    ・ 準備するもの
* 交流会に向けて調べよう	
① 調べる遊び	② 調べたもの    ③ わざのしゅるい
④ その遊びのれきし	⑤ 日本と中国のちがい
⑥ 日本と中国でいっているところ	

(資料2・役割分担)

	役わり (しごと)
1	リーダー
2	ふくりーダー
3	しかい
4	遊びの名前を言う人
5	遊びの説明をする人
6	遊びを見せる人

交流会に向けてがんばっています！(H20.11.17発行の学級便りより)

21日(金)には上海市にある日新小学3、4年生の皆さんをお迎えしての交流会が予定されています。子ども達は交流会に向けて、中国語で話す練習をしたり、中国語で自己紹介カードを作ったり、遊びの紹介の練習をしたりとがんばっているところです。中国語の時間には一人一人自己紹介の仕方を、中国語の先生に聞いていただき自信をつけたところです。子ども達は中国語や遊びを見せる練習など、ご家庭でも取り組むかと思います。子ども達が自信をもって行うことができるよう、ご家庭でも励ましていただければ幸いです。学校でも「心の交流」ができるように励ましていきたいと思っています。

③ 2学期・交流会の実際

楽しかったね、日新小学との交流会！(H20.11.28発行の学級便りから)

11月21日(金)に日新小学との交流会がありました。この日のために準備万端だったはずの子ども達でしたが、いざ本番が近づくと緊張気味の顔。「虹のステップ」のダンスでお迎えをし、クラスごとの交流会。始めの会で練習してきた中国語で司会をしたり、遊びの説明をしたりするうちにだんだん緊張がほぐれてきた様子。そして遊びのグループに分かれてから自己紹介をするところから、すっかり緊張も解けあとはすっかり打ち解けて遊びに興じる子ども達でした。その後校庭に出て、日新小学の皆さんから中国で流行っている遊び「フラフープ」を紹介してもらいました。日新小の皆さんがバスを待っている間、一緒に写真を撮ったりアスレチックで遊んだり、お話をしたりと楽しい時間を過ごしました。日新小の皆さんがバスに乗り込むところまでお見送りをし、(また会いたいね。また一緒に遊びたいね。)という気持ちで去っていくバスに大きく手を振っていました。

\* 児童の日記から

- ・ 今日、一時間目から四時間目まで日新小学との交流会でした。さいしょはわたしたちが、虹のステップをおどりました。おどり終わってから音楽室に行き、今まで練習してきたグループの発表です。グループに分かれて、名し交かん、発表をしました。わたしは、お手玉グループで日新小学のお友だちは、「二つゆり」を見せただけでできました。うれしかったことは、ポスターを読んでもくれたことです。さい後に、外に出て日新小学の人とフラフー



(折り紙を教えています)

ブをしたり遊んだりしました。楽しかったです。

- ・ 金曜日、日新小学と交流会をしました。ぼくは、日本ごまグループでした。本番の時がきました。ぼくは、きんちょうしています。まき方は全いんわかってくれました。まわせた人は二人いました。こまAグループは、日新小学の人に動作で教えました。うまくつたわってよかったです。日新小学の人ができたのは、気持ちがつたわったからだと思いました。

**\*上海市日新小学の児童からお礼のお手紙**

- ① 今日、わたしは日本の友だちと日本しょうぎをしました。つうやくなしでは交流できませんが、わたしはすごく楽しかったです。もし時間があったら、わたしたちの学校を見に来てください。わたしたちはいつまでもよい友だちでいましょう！
- ② 今日、日本の友だちはわたしたちにお手玉を教えてくださいました。かの女たちはわたしがお手玉をできるように教えてくださいました。そればかりでなく、わたしたちもフラフープを教えました。わたしとかれらととっても楽しく遊びました。わたしはそこをはなれたくないと思いました。
- ③ わたしは今日、とっても楽しく遊びました。日本の友だちがこんなに上手に中国の遊びができるとは思いませんでした。わたしの視野を広めさせてくれました。

**\*交流会のふりかえりから（日本人学校児童の振り返り）**

	日本ごま	中国ごま	おり紙と切り絵	日本しょうぎ	日本&中国しょうぎ	お手玉・おはじき
楽しかった	・できた人が二人いてうれしかった。 ・わがを伝えられてうれしかった。	・日新小学の人が上手にこまを回せてうれしかった。 ・みんなが楽しくやってくれたこと。	・おり紙は日本の遊びなのに、中国のお友だちは上手に作っていたのでうれしかったです。	・楽しかったことは、動きをおぼえてくれたこと、しあいができたことです。	・ポスターを見てくれて、分かってくれました。それでも分からなかったら口で教えてあげました。	・日新小学の先生やお友だちがポスターを読んでくれた。 ・お手玉がうまく伝わったことがよかったです。
難しかった	・言葉がよくわからなかったから、もうちょっとがんばりたかった。 ・説明が難しい。	・中国ごまのれきを伝えられなかったこと。 ・中国語でうまく説明すること。	・おり紙をうまくおり合わせるところ。	・しょうぎを教えたとき、日新小学の人があまり理解できなかったみたいだった。	・めいし交かんや動かし方をせつめいするのがたいへんだった。	・中国語の説明がうまくいかなかった。 ・名し交かんがうまくいかなかった。
初めて知った	・日新小学の人が二人も回せるなんて初めて知った。 ・中国の人は始めて日本ごまをしたのにできた。	・中国の人なのに中国ごまができたことがいがいだった。 ・中国の人はみんなできると思ったけど、できない人もいました。	・おり紙は日本のものだと思っていたけど、日新小学の人たちが「やったことがある。」と言って、とても上手におっていたので意外だと思った。	・中国の友だちが日本しょうぎと日本ごまをやったことがない人が多かったのびびっくりしました。	・中国の人にわたされた名しに日本語が書かれていたこと。	・お手玉は日本の遊びなのに、知っている子が多くびっくりしました。お手玉をやったことがあると言っていたのでびっくりしました。
もっとやりたい	・中国語でたくさん話す。 ・むずかしいわがを教えたい。	・中国ごまのわがをもっと調べたいです。 ・中国ごまのちがう形のこまをやってみたいです。	・こんど日新小学と交流するときは、おり紙のおり方をもっと教えてあげたいです。	・ほかのクラスの人や先生、中国の学校の人たちとやりたい。あと、ほんしょうぎだけではなく、山くずしなどをやりたい。	・せつめいしよを作ったりします。中国しょうぎをやって、強くなりたいです。	・三つゆりがもっと上手にできるようになりたい。 ・お手玉のわがをもっとできるようになりたい。

**④ 交流会を通して得られたもの**

- ・ 児童は「日本と中国の遊びを伝えあおう～わが・れきし・ちがひ・にているところ～」をテーマに取り組んだが、交流を通して学んだことは日本も中国も同じような遊びがあること・意外に中国の人が自国の遊

びがうまくできなかつたり、反対に日本の遊びを知っていたりと驚いていた。「遊び」を介して、児童は自分の国・日本の遊びを知ろうとしたり、中国の遊びに取り組んでみたり、相手に伝えたいという気持ちから中国語で今まで以上に勉強したりと、様々なアプローチができたと思う。「国際理解」とはつまり相手を思う気持ち・相手を理解しようという思いがあってからこそなのだと子ども達は感じ取ることができたようだ。

- ・ 後日談だが、2月になってから中国の伝統行事「元宵節」（小正月）を伝える学校行事に招かれ、3年生全員が日新小へ出かけた。それぞれの学年で「元宵節」を祝う活動を参観することができた。1年生は汤圆（タンユエンというお団子）作り、2年生は音楽室で開会式に踊られた秧歌の踊りの練習を行っていた。3年生は校庭で伝統的な遊びを行っていたので、11月に引き続き一緒に仲良く遊んだ。

## (2) 音楽科・日本の伝統音楽（箏の授業）の指導

- ① 日本人学校で行う箏の公開授業（6年生対象）の案内を日新小学に差し上げたところ、校長先生・副校長先生をはじめ音楽の先生が数名参観にこられた。

日本人学校の子ども達に指導するかたわら、日新小の先生方に日本の音楽の教科書や日本の伝統音楽がどう取り扱われているかを説明した。子ども達に日本の箏は中国から伝わったことを教えたり、中国の箏を見せて音の違いなどを感じ取らせたり、子ども達に日本の箏を弾く練習をさせたりする様子を興味深そうに参観され、日本の伝統音楽の授業に関心をもって帰られた。



（「さくらさくら」に挑戦しています）

- ② 日本の伝統音楽を実際に児童に伝えたいとの思いから、高学年を中心に日本人学校で日本の箏の授業に取り組んできた。もともと日本の箏は中国から伝わってきた楽器である。そのルーツである中国で自分自身も中国箏の演奏技術を習得でき、日本の箏との違いも学んだ。音色や弦の数やその奏法の違いにも、それぞれの国で発達してきた楽器の特性を感じることができた。指導時間数が限られているため、中国と日本との楽器の歴史を詳しく説明をする時間がなかったが、伝統楽器を指導する場合その楽器の歴史や他国とのつながりを知らせることは大事なことだと考えている。和楽器に触れるチャンスは日本の学校では増えてきたが、海外にあっては数少ないと思う。だからこそ、日本人学校で自国の伝統楽器を知り、他国の楽器との違いなどを体感することも大切なことだと感じている。

## 3. おわりに

・本取り組みを通して改めて感じたことであるが、「国際理解」とはまず「自分を知ること」。自分は何ができて・何を知りたいのか・何を伝えたいのかをはっきり持っていないと「相手に思いは伝わらない」。さらに思ったのは、指導者側で何を使って、何を学ばせたいのかをしっかりともつことにより、子ども達は予想以上のものを学び理解できるものだ。だからこそ、指導者側でしっかりと計画をもち、現地校との打ち合わせを十分行っていく必要性も感じた。

・中国と日本は過去の不幸な出来事によって、他国以上に大きな壁があるのも事実である。しかし、21世紀を生きる私たち、これから育ち行く子ども達にとって今の関係こそが重要であり、これからよい方向に発展させるべきものだと考えている。それは、アジアの国々だけではなく世界中の国々との関係においても同じことが言える。だからこそ広い意味での「国際理解」を子ども達に教えていく必要があるのだと思う。